

福祉のひろば

12
2013

特集

“家族構造の変化”と社会福祉

トピックス 「現場でつくる新しい社会福祉」のスタートに
—総合社会福祉研究所会員のつどい—



ひろばトーク

カンカラ三線・演歌師

おか たいすけ
岡 大介さん

“カンカラソング”でニッポン復興 エーゾエーゾ!!

編集 総合社会福祉研究所

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083
京都市中京区三条柳馬場東入中之町10
代表取締役社長 川下 晃正
TEL (075) 211-7277
FAX (075) 211-7270
<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

社会保障・社会福祉の原理・原則がここにある！

真田是著作集[全5巻]

全5巻セット 普及価格 14,500円 (税・送料込)



- 第1巻 社会問題論
- 第2巻 社会保障論
- 第3巻 社会福祉論
- 第4巻 I 地域福祉と社会福祉協議会
II 民間社会福祉論
- 第5巻 I 福祉労働論 II 社会福祉運動論
III 部落問題論

一巻ごとに
ご購入いただけます
各巻3230円
(税・送料込)

発行●福祉のひろば (書店ではご購入いただけません)

インターネットで「福祉のひろばオンライン」⇒「書籍」を検索してください。

お支払いは便利なカード決済で。▶お問合せ先 TEL・FAX06-6779-4955

平和の架け橋であってほしい（伊良部島大橋）

伊良部島・下地島《沖繩県宮古島市》

東日本大震災復興予算で凍結された伊良部島大橋工事が再開、三年遅れの二〇一五年完成予定。事業区間は約六五〇m。橋梁が三五四〇mに及ぶ。島民の中には、下地島の自衛隊使用や米軍使用が工事再開につながっているのではと不安を持つ人も多い。現在はフェリーが島と島の間を取り持っている。

（伊良部島から宮古島をのぞむ）




両島の人口は約六五〇〇人。島の真ん中に伊良部高校。北部は漁業、南部はサトウキビ等の農業が主産業だと紹介されたが、サトウキビ畑は全島に及ぶ。日陰で休憩を時折とりながら刈入れ作業をする。ところで読者のみなさん、グルクンという魚をご存じですか？ 伊良部島では、アギヤーという珍しい伝統漁があります。グルクン漁獲量の約五割を占めるこの漁、後継者不足の中で若者が伝統を守ろうと加わっていますですが厳しい状況です。しかし、グルクンの唐揚げは絶品です。

宮古島北東部の風力発電



伊良部島へ食料品等の日常生活物資をフェリーで運ぶ。





民間航空ジェット機パイロット訓練施設に使用されている下地島空港の周辺は、名所がいくつもあります。大小さまざまな岩塊が浜辺に点在しています。特に空港の進入路方向には有形文化財の魚垣が残り、貴重な浜辺です。

実はここにも巨大津波がありました。一七七一年四月二四日午前八時頃に、沖縄県石垣島の南東沖約四〇kmを震源とするマグニチュード7・4の八重山地震が発生。石垣島では海拔八五・四mまで津波が押し寄せました。宮古群島では、死者・行方不明者が二五四人と記されています。

宮古島圏域は沖繩本島から南西におよそ三〇〇km。宮古島を中心に八つの有人島すべてが隆起珊瑚礁から形成されている。最も高いところが一二三m。平坦な島である。沖繩全島のほぼ一〇分の一の面積。人口は約五万六〇〇〇。戦後数十年間は、六市町村（平良市、城辺町、下地町、上野村、伊良部町、多良間村）で構成されていたが、二〇〇五年に多良間村を除く五市町村が合併して宮古島市が誕生した。世界最大の灌漑用地下ダム（貯水量二〇〇〇万t余）を擁し、糖業をはじめ果樹園芸、酪農などの第一次産業と観光を結んだ地域性豊かな圏域として知られる。

太平洋戦争中、およそ三万の陸海軍将兵が展開。そのほとんどは関東軍。一九四三年九月、軍用飛行場の設営が始まり、翌年、三つの飛行場（滑走路六本）を中心に、宮古島全域を要塞（軍事基地）化した。当時の宮古の人口は約六万五〇〇〇。このうち一万三〇〇〇が兵役、徴用、疎開、その他で県外へ出て行った。残った五万二〇〇〇、そこに三万の軍隊が展開した。当時、この宮古島に「慰安所」が一六か所あったことが確認されている（戦場の宮古島と『慰安所』―日韓共同「日本軍慰安所」宮古島調査報告、なんよう文庫より）。



この圏域の再軍備は、歴史的にも許されない行為ではないか。

（写真・文 下野祇園）

●特集● “家族構造の変化”と社会福祉

特養で暮らす妻（76歳）の元に毎日通う夫（83歳）	12
自分らしく生きる——一人暮らしの高齢女性	16
保育園から見た家族と保育	20
憲法で「家族はこうあるべき」と決めてよいのか？	24

●トピックス●

「現場でつくる新しい社会福祉」のスタートに	28
ひきこもり者との協働	青木 道忠 29
土曜日の天使たち	池山美代子 32
社会福祉士事務所の挑戦	熊谷まゆみ 35
貧困と格差に徹底して向きあう中から見てくること	中村東輝子 38
社会福祉学部の挑戦と苦悩	植田 章 41
ミラノ発 障害者のオーケストラ「アレグロモデラート」	黒田 学・平沼博将・益田弥生 44
【ご案内】2日間集中講座「社会福祉の本質を問う— 『真田は著作集』から学んで」（2月8日～9日）	50
被災地での交流展示会（3月11日～14日）	51

●連載●

フォーラム	
今、そこにある福祉労働の危機	前田 鉄雄 54
連載 小川政亮 第二部 自伝（21）	小川 政亮 56
日本福祉大学の時代	
相談室の窓から	青木 道忠 60
移行期だからこそ喜びと誇りを（1）	
わらじ医者 早川一光の「よろず診療所日誌」	早川 一光 62
育つ風景	清水 玲子 64
福島県保育・子育てのつどいに参加して	
いっばいっばいの挑戦（9）	繁澤 多美 66
「生活の拠点」としての住宅の保障を！	
映画案内 『ヒア アフター』	吉村 英夫 68
現代の貧困を訪ねて	生田 武志 70
イギリスのホームレス問題を訪ねる（2）	
なにわ銭湯見聞録（八）	ラッキー植松 72
いただきます！	
子どもと一緒に ツリーポテトサラダ	すみれ乳児院 74
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜 76
花咲け！男やもめ	川口モトコ 77

●表紙の絵●
神門やす子●カット●
川本 浩

みんなのポスト 52／今月の本棚 49／福祉の動き 78

●グラビア● 平和の架け橋であってほしい（伊良部島大橋）
——伊良部島・下地島（沖縄県宮古島市）

“カンカラソング”で ニッポン復興 エーズエーズ!!

カンカラ三線・演歌師 おか 岡 たいすけ 大介さん

釜ヶ崎の夏祭りでお会いした岡大介さんに、なぜ“カンカラ”なのか、語っていただきました。

カンカラ三線 さんしん

カンカラ三線とは終戦直後、沖縄三線の代わりに作られた

米軍の捕虜となり全てを奪われた沖縄の人々は、どんなに辛

い時も、歌が必要だと、棹は米軍のベッドの木を削り、弦をパラ

トの紐で、胴は配給用の缶詰の缶に穴を空けて組み立て誕生させました。

カンカラ三線は沖縄の人々の、叫びの楽器なのです。

楽器。

シユー



フォーク発々演歌行き

二〇歳の時からフォークを歌い始めた。最初は吉田拓郎、高田渡、岡林信康。ギ

ターと『日本フォーク私的大全』を手にいろんなフォークシンガーを追いかけた。

自分で曲もたくさん作った。本当に日本のフォークが好きだった。

日本フォークのルーツを辿った。アメリカフォーク！ ポブ・デイルン！ ウ

ディ・ガスリー！ いや違う。そんな、チャラチャラミュージックではない。岡

大介の求めていたのは、日本語の泥臭さの原点。明治大正演歌だった。

カンカラソングで啞蝉坊演歌 あせんぼう

岡大介の演歌は、演説歌、本当の演歌だ。惚れた腫れたの艶歌や、怨歌、どこ



おか たいすけ

明治大正演歌、昭和歌謡をうたうカンカラ三線演歌師。特に演歌師・添田唾蟬坊・知道親子をうたっていることでNHKや新聞各社などの注目を集める。都内を中心に演芸場、流し、祭り、イベント出演など全国で活動中。日本の古き良き曲と唄声を今に伝えるべくうたう。「岡大介お酒のめのめブログ」にてライブ日程更新中！ <http://okataisuke.web.fc2.com/>

でも聞く商業主義、金儲けの〴〵歌^{えんか}ではない。

明治大正演歌絶頂期のスーパースター親子、添田唾蟬坊・知道は高田渡さんに教えてもらった。

♪ニッポンの政権はどうしたもんかな

増税、原発、TPP

ねじれりゃまだまだ良い方で、

ねじれなければ歯止め無し

ああノンキだね

撤去せよ撤去せよ瓦礫を撤去せよ

汚染された瓦礫を早く撤去せよ

ついでだ嘘つきペテン師の国会の瓦礫も撤去せよ！

ああノンキだね

「ノンキ節」(曲：唾蟬坊 詞：岡大介)

演歌は〴〵庶民の叫び〴〵であり〴〵怒り〴〵である。

今日も岡大介〴〵カンカラ一本〴〵どこかで演歌を歌う。

そして〴〵カンカラソング〴〵が日本を救う！(笑)

特集

家族構造の変化と社会福祉

五十数年前に別れた母親の生活保護受給の問い合わせが北の町から届きました。半世紀以上も会っていません。役所は、今さらこの「親子」に介入してくるのでしょうか。そもそも介入できるのでしょうか。一〇月号で紹介した女性の生活保護利用者は、病氣とたたかいながら、同時にDVの夫から逃れて秘かに生活しています。この利用者にも、利用抑制のために介入してくるのでしょうか。やっとな落ち着き始めた暮らしを手に入れかけた人に、実質的に家族が成立していない関係に、斧を振っていいのでしょうか。生活保護制度の扶養義務問題は、生活保護にとどまらず、さまざまな社会福祉の制度を規制し抑制するための手段として、「家族」だったことを盾に、強制立ち退きのブルドーザーのように問答無用で押しかけているように思えてならないのです。

一 一月号「映画案内」で吉村英夫さんが紹介された『希望の国』を観ました。原発事故は、福島を事故前とは質の違った家族問題に追い込みました。そもそも厳しい就労状態の地域で、そこに目を付けて原発雇用も生まれたのでしょうか、新たな困難を家族に持ち込みました。単身赴任、集団避難による新たな地での生活、仕事探しなど、家族のそれぞれの新たな場との向き合いが始まり、そこでの定着と同時に困難の始まりも浮き彫りになっています。家族が別れて暮らさざるをえない家族分離で、日々思いを寄せてきた家族、夫婦の積み重ねが